備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和４６年度	根拠法令・例規等	老人福祉法、岡山県老人福祉費（在宅）補助金交付要綱
総合計画	大項目	基本目標 02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先	担当課（室）：介護福祉課
	中項目	基本施策 01 やさしさあふれるまちづくり		職・氏名：高齢者福祉係長　横山裕昭
	小項目	施策 04 高齢者福祉		電話：0869-64-1827
事務事業名		10 老人クラブ助成事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	老人クラブ会員
目的（何のために）	地域の高齢者が生活を豊かにする楽しい活動や地域を豊かにする社会活動を目的に組織している老人クラブに対し、その育成・支援を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	高齢者が日常的に健康づくりに取り組んだり、社会活動に積極的に参加できるようにする。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
老人クラブ助成事業	老人クラブの活動、事業に対し補助金を交付する。	◎
高齢者健康づくり補助事業	料理教室、水泳教室、グラウンドゴルフなどで高齢者が集まり、閉じこもり防止、健康づくりを推進している。	○

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	6,000	5,489	5,491
	必要人員 人件費		0.29人 2,270	0.43人 3,455	0.27人 1,953
	事業費計		8,270	8,944	7,444
財源	国県支出金	千円	3,991	3,658	3,659
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		4,279	5,286	3,785
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標	加入会員数	説明	加入会員の推移		
	結果指標量	人	5,939	5,679	5,658
	対前年比	%	―	95.6%	99.6%
	活動コスト	円	8,384,000	8,944,000	7,444,000
	単位当たりコスト		1,412	1,575	1,316

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標であるの成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
老人クラブ加入率	目標値（A）	43	39	40	38
	実績値（B）	38	38	37	到達目標値
	達成率（B/A）	88.37%	97.44%	92.50%	38

成果指標設定の考え方・式や説明

会員数／６０歳以上人口×１００

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ■ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度・市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ■ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：各地区とも単位クラブ結成人数である３０人に達していないクラブがある。各地区老人クラブの事務局はほぼ自主運営ができているが、一部できていないところがある。市老連の事務局も自主運営を促しながら、支援を続ける。

総合評価

老人クラブは、市内最大の組織であり、高齢者の健康づくり、社会奉仕活動を通じて、明るく活力ある高齢者社会を形成するため、今後も事業を継続していく必要がある。しかし、会員数が減少している中で、老人クラブの活性化と自主運営について検討するとともに、より効果的・効率的な事業展開を行う必要がある。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：会員拡大、若手会員の加入促進対策を図るとともに、自立した運営を行う。